

学びの実感

ことばのちからは 生きる力

仙台市立古城小学校
研究部だより
2013年
5月28日(火)
NO:3
文責:金子

立体の体積

◎昨日は、お忙しい中の授業参観ありがとうございました。担任も子供たちも「先生方に見られている」という、ほどよい緊張感の中での授業でした。

◎授業教材『体積』
授業の準備を進める段階で、「体積の多様な求め方を考える」ではなく以下の点に気を付けながら指導課程を作り授業を進めることにしました。

- ①「体積の求め方、計算の仕方を説明する」ことに重点を置く。
- ②自分の考えを、友達に分かりやすく、カードに書き込む。
- ③自分達の考えを交流をする。

…では、一体どのように指導課程を構築していくべきなのか？

指導課程の流れ

- 1, 前時の復習
- 2, 気づく
- 3, 課題をつかむ
- 4, 解決の見通しを付ける
- 5, 解決の見通しを発表する
- 6, 自力解決をする。
- 7, まとめ
- 8, 適応問題、練習問題に取り組む

◎左記にあるような形で取り組みました。今回の指導課程の提案（学年部で相談しながら検討してください。）

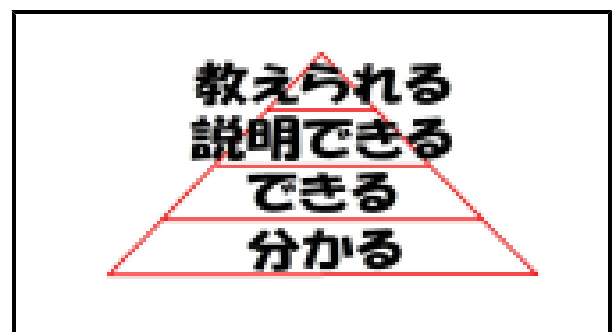
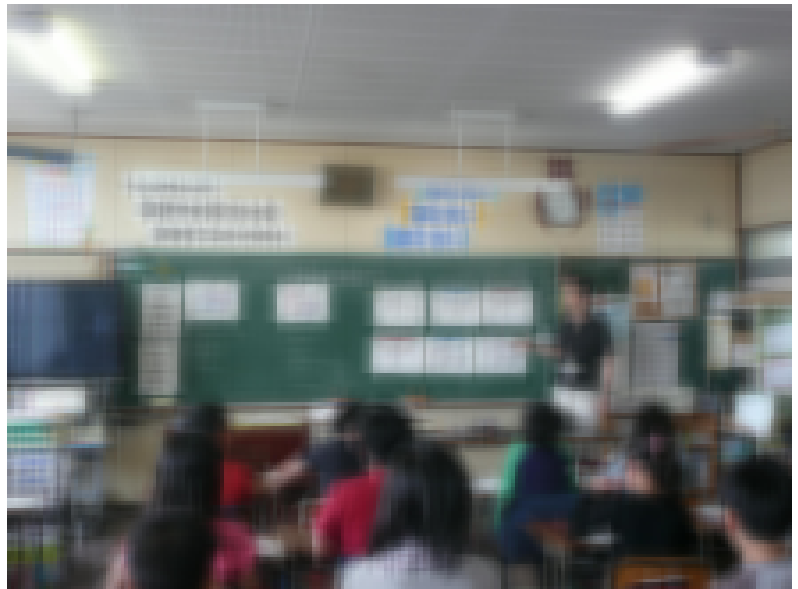
◎その他に、高学年部では、「言語環境の整備」も高学年として身に付けなければならない力と位置づけ、下のようなピラミッドに解説を加え、教室に掲示することにしました。「詳しい話を聞きたい」「資料がほしい」という場合には、市川先生までお話しを。

【事後検討会から】

Q1：導入段階で、言葉による公式の復習をしていたが、数問の練習問題に取り組むという方法もあったのでは？

A1：計算に重きを置かず、説明に重きを置いたために、そこまで気が回りませんでした。今後の検討課題にします。

Q2：説明の方法として「絵（図）と式と言葉



で説明」の方が説明する側にはしやすくなり、聞く側には分かりやすくなったのでは？

A 2：指導課程の後半に「自力解決」があったために、式の説明を省きました。単元や目標によって代わってくるものですよね。今後の要検討課題にしていきます。

Q 3：「気づき」や「解決の見通し」を板書したことにより、算数の苦手な児童も、向かうべき方向を理解し、取り組みやすくなったのでは？

A 3：好き嫌い、得意不得意問わず、何をするかを理解して、



作業を進められるようにと考え行ってみました。



【その他】

◎子供たちは、昨年度までの国語の研究で身につけた力があります。その力を更に向上（算数の言語活動への応用も含む）させられるように、私たちは頑張らなければなりませんね。

◎私たちも昨年度まで取り組んできた「アナウンス」や「意図的指名」も是非生かしていきたいですね。

◎算数のノートの形（学年に応じたもの、又は古城型のようなもの）などを考えて行きたいですね。

◎「理解できる」「深められる」「応用力につながる」ようなプリント等の開発も重要ですね。みなさんで少しずつ試しながら資料の蓄積をよろしくお願いいたします。

◎とにかく時間の許す限り、互いの授業を一つでも多く見合いましょ。見るポイントは以前にお知らせしたとおりです。「自分だったら…」「全く同じ授業ができるくらいの記録をする」などいろいろですが、お互いに頑張れるとすばらしいですね。

◎事前検討会、事後検討会への参加もできる限り取り組んでみましょう。さすがに事前授業の参観は難しいかも知れませんが、やはりここでも、「できる限りの頑張り」が必要になってくるのでしょうか。

次回の研究授業は・・・7月初旬予定

3年1組 大泉学級 「重なりに目をつけて」です。